

中央区

平成25年(2013年)10月

まちづくり会議通信

◆このリーフレットは、中央区のまちづくりに関する様々な課題や情報を、地域の皆さまと共有するためにお届けいたします。

第9号

1 東日本大震災での避難所運営について

7月29日に開催された今年度第2回目の中央区まちづくり会議では、宮城県塩竈市立浦戸中学校教頭の伊東 毅浩先生から東日本大震災での避難所運営について講演がありました。

「その時、避難所では～防災教育と命の大切さ」＜講演より抜粋＞

震災の翌日、教育委員会から誰か2人避難所に行ってくれないかと話があったので、私が手を挙げました。

避難所である気仙沼中学校に着いて聞いたのは、まず、避難者は震災当日を体育館で過ごしたということです。当然、寒いし電気が使えないのでストーブは使えません。体育館の窓の暗幕を引きちぎって、それで寒さをしのいだのですが、全然枚数が足りなかったそうです。

中学校には、わずかに備蓄用の食料がありました。缶のビスケットです。私は避難者にこう言いました。「皆さん、大変遅くなりました。気仙沼市役所の者です。これから皆さんにビスケットをお配りしますが、申し訳ありません。お1人3枚しかないのです。ご協力願います」。

体育館はしんと静まりかえり、誰も一言もしゃべりませんでした。

私が、3枚ずつですと言って配っていくと、さっき取られた方が、もう一度手を伸ばしてきたのです。私は、その方がさっき取ったばかりだということを覚えていたので、ビスケットの箱をしっかりと抱え、絶対に2回目は渡さないぞと、瞬間的にその方に背を向けました。

すると、その方は何とおっしゃったと思いますか。

「すみません、4枚取ってしまいました」と、1枚戻しにきたのですよ。私は恥ずかしかったと同時に、感動しました。よく今回の震災で、東北の人間は我慢強いとか、パニックを起こさないで立派だとか言いますが、それは東北だからではなく、我々日本人、もっと言えば人間そのものが持っている強さだと思います。

あの日、震災のニュースをみて、皆さん全員が心を痛めたと思います。そういった意味では、すべての人が被災者だと私は思うのです。被災地のことを忘れないで、皆さんがそれぞれの場所で、一生懸命生きていただく、それが今回の震災で亡くなった方々のためになるのだと私は信じています。

講演終了後、出席者からは、「伊東先生のお話に感動した」「これからも震災のことを忘れることなく日々を過ごしたい」などの感想が聞かれました。

(裏面へ)



伊東 毅浩 氏

1962年生まれ。東日本大震災当時は、宮城県気仙沼市教育委員会に勤務し、800人が集まった気仙沼中学校の避難所を運営した経験を持つ。現在は、震災で生かされ、語り部として生きていくことを決意し、命の大切さを伝えたいと全国行脚を続けている。

2 平成25年度中央区防災訓練について

「平成25年度中央区防災訓練」は、9月2日（月）に初めて中島公園を会場として実施されました。今年は新たに、大型映像車を導入して会場内や緊急輸送道路被害調査訓練の様子などを映したほか、豊平川沿いの地域で想定される災害に対応した訓練（マンションの避難訓練、簡易土のうを使用した水防工法訓練、水没ドアの開閉体験など）やはしご車による高所救助訓練を実施しました。当日は小雨が降る場面もありましたが、各町内会や山鼻小学校、中島中学校、消防団、札幌市赤十字奉仕団、中央区災害防止協力会、南警察署、陸上自衛隊、北海道河川財団、札幌市設計同友会など、昨年度の参加数を大きく上回る **154 団体 1,252 人** にご参加・ご協力いただきました。



新規 大型映像車



区災害対策本部の様子



新規 水没ドア開閉体験



新規 高所救助訓練



水防工法訓練（積み土のう）



要援護者避難支援訓練



応急救護訓練



煙道通過訓練



新規 ラジオカロスサッポロの生中継



災害対応型自動販売機

＜発行＞ 中央区まちづくり会議事務局（中央区市民部総務企画課）

〒060-8612 中央区南3条西11丁目中央区役所 Tel011-205-3205 FAX011-261-2991